

CTR NEWSLETTER

No.8 | March 2022

CTR International Tourism Research Salon



CTR研究員および客員フェローが現在行っている調査や研究活動および研究成果を発信することで、日本の観光学研究に関する知見を広く共有し、さらに議論を通じて知の集積と拠点化を推進することを目的に、CTR主催では初めてとなる**国際学会**を3月8日(火)と9日(水)の2日に渡り、オンラインで開催しました。世界30以上の国や地域から170名に及ぶ参加者が集まりました。

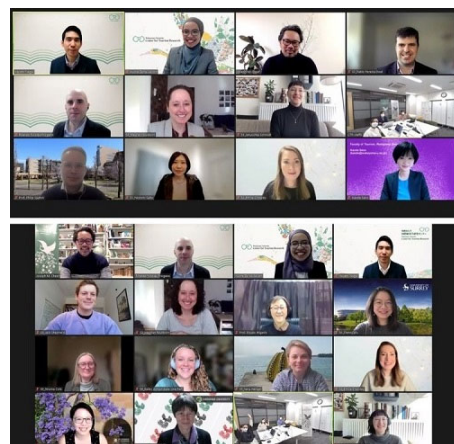
本学会では、今後のポストコロナに向け、観光学研究そのものを見直し、新たな課題に取り組んでいく必要性を認識し、Transforming Tourism Research: Reshape, Rethink, Renew, Regenerate, Restart (観光学研究の変革：再形成、再考、更新、再生、再出発)をテーマに、4つの基調講演とCTR研究員や客員フェローによる研究発表のセッションを行いました。

基調講演は、CTR副センター長である本学観光学部の東悦子教授およびNPO法人高野山異文化交流ネットワークの松山典子代表による歴史的観点からの和歌山の観光発展についての紹介を皮切りに、日本を舞台とした観光にまつわるさまざまなテーマで深い議論が交わされました。東京外国語大学大学院Philip Seaton教授は、1日目の最終プログラムとして、日本が得意とするエンターテインメント作品を軸としたコンテンツツーリズムの変遷と未来について視点を提示しました。2日目のトップバッター、北海道大学大学院Susanne Klien准教授による講演には多くの視聴者が耳を傾け、コロナによってもたらされた地方と都市に対する認識のパラダイムシフトについて考えました。2日間の締めくくりとなる広島大学大学院Carolyn Funck教授による講演は、アイランドツーリズムに着眼し、コロナ禍で浮かび上がった可能性と課題について、示唆に富む議論が展開されました。これら基調講演の録画動画は、和歌山大学公式YouTubeチャンネルから視聴可能です。[wakayamauniv - YouTube](https://www.youtube.com/channel/UCwvYUgUgUgUgUgUgUgUgUgU)

一方、6つのセッションで行われた研究発表では、29名のCTR研究員と客員フェローがプレゼンテーションを行った他、モデレーターもCTR研究員が務め、多くの研究員が本学会に参加しました。各セッションでは多岐に渡るトピックについて活発な質疑応答が行われ、国内外の多様な参加者によるさまざまな視点から議論が交わされました。また、オンラインながら、研究者間の交流も見られ、近い将来の対面での学会開催への期待が寄せられました。

なお、今回の研究発表の内容を基に執筆された12本の論文は、CTR発行の英文ジャーナル Wakayama Tourism Review Vol.3に収録されています。

(和歌山大学学術リポジトリ: <http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/en/journal/24363839>)



Event reports - From October to March

11月5日（金）CTR セミナー

‘Overcoming negative disaster images: How Fukushima’s sake breweries rebuilt its regional brand’

CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授のコーディネートにより、東北大学のDavid N. Nguyen特任准教授を講師にお招きし、ハイブリッド形式のセミナーを開催しました。東日本大震災後の影響による福島県産の製品に対する風評被害を、地元酒造メーカーが中心となっていかに克服したのか、福島が直面している経済・観光危機からの復興についての研究報告を元に議論しました。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能です。 <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>



11月19日（金）

‘2021年度CTRリサーチフォーラム’



5年目となる本フォーラムは、例年通り、CTR研究支援プログラム採択課題6件の中間報告およびCTR専任研究員3名による活動報告を行いました。昨年に引き続き英語でのオンライン開催となり、CTR客員フェローを含めた研究者の他、本学学生も参加し、質疑応答や議論が行われました。初回

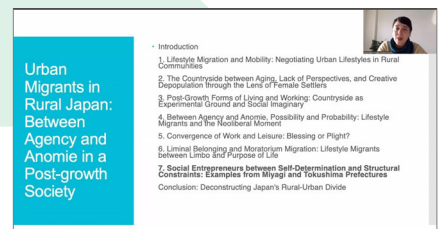
から継続して総括を担当しているRichard Sharpley本学客員教授（セントラルランカシャー大学教授）も英国から参加し、研究活性化の取り組みが定着していることへの激励と、今後への期待を述べました。

※アブストラクト集 <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2021101800120/>

1月21日（金）CTR セミナー

‘Social entrepreneurs between self-determination and structural constraints: Examples from Tokushima and Miyagi prefecture’

CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授によるコーディネートで、北海道大学大学院のSusanne Klien准教授を講師に、ウェビナーを開催しました。地方に移住し起業した人々の動機や彼らのワークライフスタイル、またコロナによる打撃と再発見について、Klien准教授の著書「Urban Migrants in Rural Japan: Between Agency and Anomie in a Post-growth Society」を基に講演いただきました。また質疑応答では、日本の地方移住や地域コミュニティの懸念についても活発な議論が行われました。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能です。 <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>



て、Klien准教授の著書「Urban Migrants in Rural Japan: Between Agency and Anomie in a Post-growth Society」を基に講演いただきました。また質疑応答では、日本の地方移住や地域コミュニティの懸念についても活発な議論が行われました。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能です。 <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>

2月22日（火）鼎談

‘和歌山の観光イメージの創造 -吉田初三郎鳥瞰図を通して-’



CTR文化・遺産研究ユニットの取り組みとして、CTR副センター長の東悦子教授によるコーディネートで、石川肇CTR客員フェロー（国際日本文化研究センター）および、CTR専任研究員Nicolas Prozano特任講師との鼎談をライブ配信しました。石川氏から、日本内外の旅行パンフレットに鳥瞰図を取り入れた絵師、吉田初三郎について解説が行われた後、初三郎の作品を題材に、観光地図としての鳥瞰図の役割や価値について議論を行いました。

2月 23日 (水・祝) Space & Mobility研究グループ シンポジウム

‘観光からみた宇宙 6’

6年目となるシンポジウムシリーズは、「アストロツーリズム、これまでとこれから」をテーマにオンラインで開催されました。ニュージーランド・テカポで星空ツアーを行うDark Sky Projectを立ち上げた小澤英之氏の講演および、和歌山大学大学院観光学研究科博士前期課程の澤田幸輝氏によるアストロツーリズム研究の動向についての報告

が行われました。また、和歌山県みなべ町で星空ツアーを行うSTAR FORESTを率いる角田夏樹氏を交えたパネル討論では、CTR研究員の尾久土正己教授がモデレーターを務め、同研究員の富田彦彦教授が本イベントの全体統括を行いました。



3月 16日 (水) ~ 17日 (木)

‘第4回日本国際観光映像祭’



摂南大学、和歌山大学観光学部とともにCTRが実行委員会を構成し、CTR研究員の木川剛志教授が代表を務める日本国際観光映像祭が、オンラインで開催されました。4回目を迎えた本年は、過去最高となる国内部門201本、国際部門 1,542本もの観光映像の応募があり、コンテスト

の表彰や講演等の多彩なプログラムは、鹿児島県与論町を会場に国内外へライブ配信されました。持続可能型の観光地として注目が集まる与論島を舞台に、観光とSDGsについてもパネル討論等のセッションで議論が交わされました。

Publications

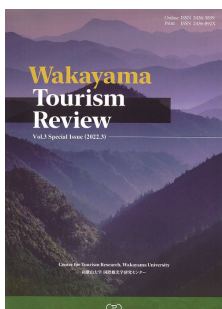


Wakayama Tourism Review (WTR)

Vol.2 & Vol.3

WTRは、CTR研究員およびCTR客員フェローによる論文を収録した、CTR初となる全英文のジャーナルです。年1回の発行に加え、今年度はCTR主催国際学会「CTR International Tourism Research Salon」の特別号 (Vol.3) も発行されました。オンライン版は本学学術リポジトリにて一般公開しています。

<http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/en/journal/24363839>



イベント実施レポート

CTRスタッフによるイベント実施レポート

「観光学分野の国際ウェビナーにおけるオンラインイベント運営について」がイベント学会の発刊する機関誌「イベント学研究」第4巻に掲載されました。これは、2020年度にCTRが主催した「Wakayama-CTR Webinar Series 2020 (<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/index.html>)」の運営を踏まえ、広く知見を共有するため執筆したものです。



※CTR研究員の論文や著者等の業績は、CTRウェブサイトで紹介しています。ご覧ください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/publications/>

Conference Support

合同学生シンポジウム

CTRが後援した「AY2021 Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research」が、1月22日（土）にオンラインで開催されました。CTR研究員の永井隼人准教授とCTR客員フェローの齊藤広晃准教授（立命館アジア太平洋大学）が共同実行委員長を務め、本学観光学部の学生も英語で発表を行った他、CTR研究員のAdam Doering准教授や、CTR客員フェローの鎌田裕美准教授（一橋大学）、柏木翔助教（神奈川大学）も実行委員として参画しました。

観光学部永井研究室（ゼミ）ゲスト講義

CTR経営研究ユニットの共催で11月24日（水）に、クイーンズランド州政府観光局(TEQ)日本局長のPaul Summers氏を講師に迎え、ゲスト講義が開催されました。CTR研究員の永井隼人准教授のゼミ生だけでなく、CTR研究員も多数参加し、DMOとしてのTEQの事業及びコロナ後の戦略等についての講義を受け、質疑応答が活発に行われました。

SEAMA2022

国際学会「SEAMA 2022: Island Tourism & Hospitality Management」が3月1日（火）～2日（水）に琉球大学国際地域創造学部の主催で開催され、CTRが後援を行いました。同大学を会場にハイブリッド形式で行われ、木川剛志教授が基調講演に登壇した他、Joseph Cheer特任教授および永井隼人准教授、客員フェローのChe-Jen Su教授（Fu Jen Catholic University）も実行委員やモデレーターとして、CTR研究員が開催に携わりました。

第2回Working in Niseko 研究会

3月18日（金）に、CTR経営研究ユニットの共催で、Working in Niseko研究会（北星学園大学短期大学部英文学科主催）がオンラインで開催されました。立教大学観光学部川嶋久美子准教授による講演や、科研費助成の共同研究に取り組むCTR研究員の永井隼人准教授とCTR客員フェローの森越京子教授（北星学園大学短期大学部）による研究報告等が行われ、北海道・ニセコにおける外国人ワーキング・ホリデー受け入れの状況について、研究者、産業界、地域との情報交換を実施しました。

APTA2022

タイ・チェンマイで2022年7月6日（水）から9日（土）にハイブリッド開催される国際学会Asia Pacific Tourism Association (APTA)の第28回大会にCTRがスポンサーとして参加します。すでに発表要旨の提出は締め切られていますが、視聴は可能です。詳細は公式ウェブサイト（<https://www.apta2022.org/>）からご確認ください。

Conference Reports

The 15th UNWTO/PATA Forum

10月15日（金）から17日（日）にかけて、中国・桂林にてハイブリッド開催された国際会議、The 15th UNWTO/PATA Forum on Tourism Trends and Outlookで、Joseph Cheer特任教授が招待講演を行いました。今年の会議テーマは「Tourism and Rural Development」で、Cheer特任教授は、「Therapeutic Landscapes: A Natural Fit for Rural Tourism Development?」というタイトルで発表を行いました。

観光学術学会第9回研究集会

観光学術学会第9回研究集会が、2月19日（土）に追手門学院大学からオンラインで開催され、「観光とエシックス—様々な探究の可能性」をテーマとしたシンポジウムのコメンテーターとして、Nicolas Prozano特任講師が参加しました。

<編集・発行>

和歌山大学 国際観光学研究センター Center for Tourism Research

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学 西1号館1階

TEL: 073-457-7025

E-mail: info-ctr@ml.wakayama-u.ac.jp

Web: <https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>